

平成30年度高知県小規模林業推進協議会第3回協議会

○日時 平成31年 3月19日（火）13:30～16:00

○場所 かんぼの宿伊野

○出席者 79名

(1) 会長挨拶

○中嶋会長

小規模林業協議会の会員は現在519名になっています。この人たちにほんまもんの講師に接触してほしい、習ってほしいなというのもあって、今回、「自伐型林業塾」というのをこの小規模林業推進協議会と伴走する形で、NPO法人土佐の森・救援隊で立ち上げようかと思っています。

この1年間で、最低1回は相談会を開くような形で、みんなのレベルが上がって、間違った施業に行かないように、行ったとしても、それを何とか修復するような展開ができるように、来年度、そういう展開ができるように頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(2) 活動事例発表

- ・「農業、林業、特用林産を中心とした複合型経営について」

フォレストファーマーズ下切 宮川 実 氏

- ・「すくも森林塾の取り組みについて」

宿毛市産業振興課 小島 保輝 氏

(3) 林業労働安全衛生研修

- ・「林業における業務災害について」

MS高知株式会社 代表取締役 松本 直人 氏

(4) 活動事例発表（要約版）

- ・「農業、林業、特用林産を中心とした複合型経営について」

フォレストファーマーズ下切 宮川 実 氏

三原村は結構海に近いけれど、実は海はありません。30分とか1時間かけて海まで出るので、ほとんど山です。森林率87%で見渡す限り山です。

この中で、山でどうやって生活をしていくか考えて、フォレストファーマーズという組織は、集落営農をメインとして作った組織です。

メンバーには30代の人が2人、50代、60代、70代とおり、この3月で丸2年たちましたが、20万円前後の給料を取りながら何とかやってこれました。

平成29年3月5日に、フォレストファーマーズ下切という組織を立ち上げ、いろんな計画を立てながらやってきました。この1年目というのは特に難しくて、農業、林業のほか、工場の屋根のふきかえ、部屋を改造して広くするため壁をぶち抜く仕事や、解体の手伝いをするがありました。

そこでもうちょっと腰を据えて、農業と林業で飯を食うていこうと話し合い、下切という、この20戸しかない山の中の集落をキノコの里に変えようと、キクラゲの栽培を始めました。1年目は、原木のキクラゲの菌駒を打ちましたがすぐには生えないことから、手っ取り早く、菌床を5月に1,000駒購入し、発生操作を行ったところ、毎日とれるようになりになりましたが、売り先に困って、とにかくキクラゲを一生懸命配りました。

キクラゲの商品名は下切集落に「老いを止める」、「老止の会」というおばあちゃんの集まりの会があって、その名前をそのままいただいて「老止木耳」と書いて「おとめきくらげ」と名付けて、アンチエイジングと言われる、キクラゲの効能を「老止木耳」という名前に、掛けました。

用材を出荷することは当然今もやっていますが、丸太、C材、枝葉もバイオマスに出せば収入になります。道から遠くの枝葉を集めてバイオマスに持っていくと赤字に近い状態になりますので、とにかく道をよくして集積場所までなるべく速くたくさん量を運べるような道をつけると、かなりのお金になっていくと思います。

そういうふうには山の整備をしていけると、山や生態系の保全に繋がっていくと思います。日々、仲間と酒を飲むときは、この水量の減った川が、自分たちの子供のころに泳ぎよった川のように戻せるくらいに、山の整備をしていきたいなという夢を語っています。

(5) 平成31年度支援事業について

(6) 閉会